

## 概要版

安曇野市天然記念物  
安曇野のオオルリシジミ  
保存活用計画

2022 安曇野市教育委員会



## 天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」とは

オオルリシジミ (*Shijimiaeoides divinus*) は、瑠璃色の翅を持つ大型のシジミチョウです。国内では青森、岩手、福島<sup>1</sup>の東北地方と、長野県を中心とする中部・関東地方にオオルリシジミ本州亜種 (*Shijimiaeoides divinus barine*) が分布していましたが、東北地方は 1970 年代までにすべて絶滅、中部地方も安曇野を含む県内 3 か所を除いて絶滅したとされます。安曇野市天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」<sup>1</sup>は、オオルリシジミ本州亜種のうち安曇野市全域に生息する個体を対象としています。

このチョウの成虫は、5 月中旬に発生し、6 月にかけてクララの蕾に産卵します。卵は、約 1 週間で幼虫となり、クララの蕾と花のみを食べて 6~7 月に成長します。7 月頃には蛹になり、翌年 5 月までを土の中で過ごします。

安曇野市名誉市民の田淵行男は『山の絵本 安曇野の蝶』の中で、オオルリシジミを「草原の青い星」と例えています。



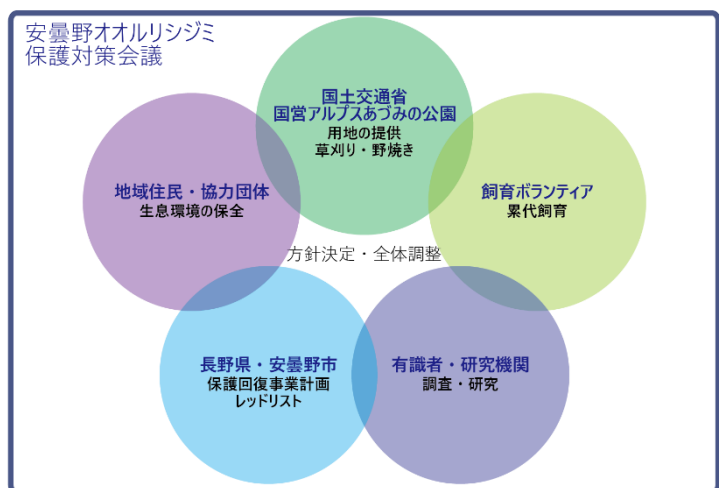
オオルリシジミ本州亜種

## 保存活用の方向性と現状変更等

安曇野市天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」は、オオルリシジミ本州亜種だけでなく、その生息環境まで包括的に保護することを目的として指定されています。

このために、安曇野市教育委員会では、保存活用計画を策定して、「保護区」「活用区」「その他の区域」（計画区域の図を参照）ごとに、保存活用の方向性や安曇野市文化財保護条例にもとづいて行為の取扱いを定めました。

また、計画の推進体制として、安曇野オオルリシジミ保護対策会議を管理団体とし、市民・専門家・国営アルプスあづみの公園・長野県・安曇野市などが協力することとしています。



管理団体の構成

<sup>1</sup> 安曇野市天然記念物 安曇野のオオルリシジミ 令和 4 年(2020)3 月 30 日指定



## 天然記念物「安曇野のオオルリシジミ」の構成要素

この天然記念物は、次のような要素からなりたっています。オオルリシジミ本州亜種だけではなく、その生息環境にも価値付けをして守ることで、オオルリシジミが暮らす安曇野の良さを後世に伝えることを目的としています。

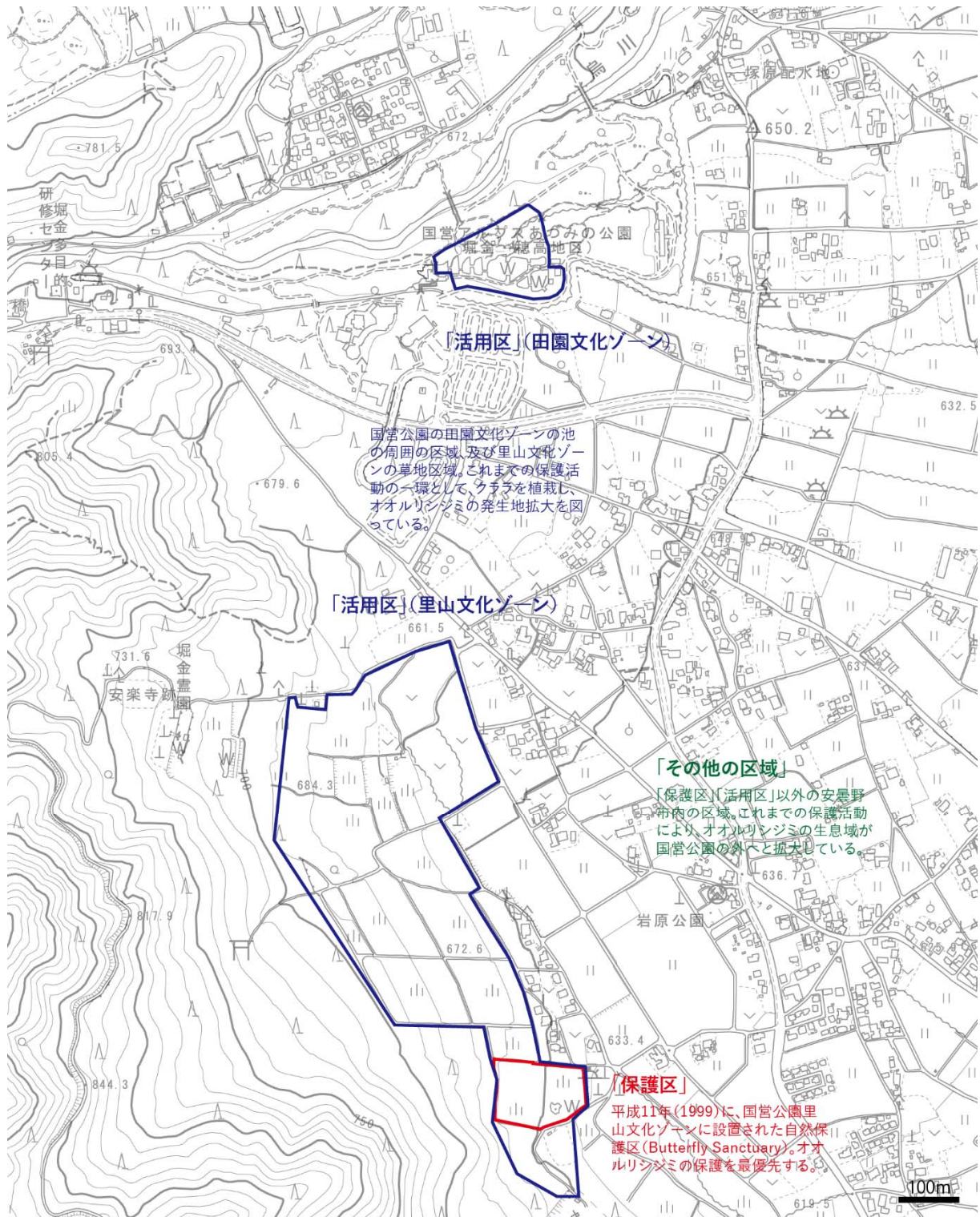
### 天然記念物の重要な要素

|                         |   |  |
|-------------------------|---|--|
| <p>オオルリシジミ<br/>本州亜種</p> | <p>瑠璃色の翅をもつ大型のシジミチョウ。かつては東北、中部・関東地方に生息していたが現在は長野県内の安曇野市を含む 3 か所でしか見られません。なお、九州の阿蘇地方にはオオルリシジミ九州亜種が生息しています。</p> |  <p>オオルリシジミ本州亜種</p> |
| <p>クララ</p>              | <p>マメ科の多年生草本でオオルリシジミの唯一の食草。オオルリシジミの幼虫は、クララの蕾・花だけを食べます。有毒植物<sup>2</sup>であり、かつては「ウジゴロシ」とも呼ばれて殺虫剤として利用されました。</p> |  <p>クララ</p>         |
| <p>草地環境</p>             | <p>オオルリシジミは草地環境に適応した種のため、草地が放置され森林化が進むと生息できません。安定した草地環境を維持し、オオルリシジミの食草や蜜源を保全することが生息の条件です。</p>                 |  <p>草地環境（保護区）</p> |

### 重要な要素以外の守るべき要素

|                            |  |   |
|----------------------------|--|---|
| <p>草地環境の<br/>生物多様性</p>     | <p>オオルリシジミが生息するような草地環境は人間が意図的に維持してきた半自然環境で、そこに適応した生態系を育んできました。しかし、現代では急速に失われており、絶滅危惧種も多くなっています。オオルリシジミを保全することは、草地性の多様な動植物の保全につながります。</p>                               |  <p>ベニモンマダラ</p>  |
| <p>オオルリシジミを<br/>とりまく景観</p> | <p>草地環境を含む里山は、多様な景観と生態系がモザイク状に配置され、高い生物多様性が保持されています。オオルリシジミや草地環境の保全は、これらを取りまく安曇野らしい里山の景観の保全につながります。具体的には、地域資源が持続可能なシステムで利用され、また生物多様性も高かったとされる昭和 30 年代の里山の景観がモデルです。</p> |  <p>堰（水路）の風景</p> |

<sup>2</sup> 全草に有毒成分であるアルカロイドを含むため、口に入れないように注意してください。ふっ方はウルシ類のように触れることによってかぶれることはありますが、触ったあとは手を洗うようにしましょう。



計画区域

保存活用計画の全文を市ホームページにて公開しています。右記二次元コードを読み取るか、トップページの「記事 ID 検索」にて「89085」で検索してください。

